

○ニューモバックス NP [注]

【重要度】 【一般製剤名】肺炎球菌ワクチン（肺炎球菌荚膜ポリサッカライド）（U） Pneumococcal Vaccine 【分類】 ワクチン製剤 [PPSV23]

【単位】 0.5mL/V [23 価]

【常用量】 1回 0.5mL を筋肉内又は皮下に注射（1） 静注，皮内注射は避ける（1）

【用法】 筋注または皮下注。再接種には十分な間隔を置く（5年以内の再接種で副反応の頻度・程度が高いため）

【透析患者への投与方法】 常用量（1） 腎不全患者は初回接種から5年以上経過した際の再接種の対象者に含まれる（日本感染症学会，肺炎球菌ワクチン再接種問題検討委員会）

【その他の報告】 HD 患者は接種後1年以内にIgG抗体価が低下する（Pourfarziani V, et al: Ann Transplant 13:43-47, 2008）

予防効果はある [インフルエンザワクチンとの併用でよりよい] が，5年未満の間隔で再接種すべきかもしれない（Gilbertson DT, et al: Nephrol Dial Transplant 26:2934-2939, 2011 PMID: 21317410）

透析患者でも抗体産生能は非透析患者と同等である（鈴木祐介, 他: 日本内科学会雑誌 82: 265, 1993）

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量（5） 腎不全患者は初回接種から5年以上経過した際の再接種の対象者に含まれる（日本感染症学会，肺炎球菌ワクチン再接種問題検討委員会）

【その他の報告】 CKD 患者の抗体誘導能は健常人と同等（山本凌平, 他: 日腎会誌 60:354,2018）

【特徴】 肺炎球菌中で高頻度にみられる23種類の荚膜型の肺炎球菌を型別別に培養・増殖し，殺菌後に各々の型から抽出，精製した荚膜ポリサッカライドを混合した液剤。投与対象の詳細は添付文書参照。

【主な副作用・毒性】 アナフィラキシー様症状，知覚異常，血小板減少，蜂巣炎，関節痛，筋肉痛，ほてり，白血球増多，CRP 上昇，注射部位異常など

【相互作用】 通常，生ワクチン接種では27日以上，不活化ワクチン接種では6日以上の間隔を置いて接種するが，医師が必要と認めた場合にはこの限りではない。ただし混合注射は避ける（1） 免疫抑制剤の長期投与や大量投与患者では効果が得られないおそれがある（1）

【主な臨床報告】 インフルエンザ HA ワクチンとの同時接種でも副反応は増加しなかった（眞継賢一, 他: 日病薬誌 52: 559-62, 2016）

【効果発現時間】 接種後2週間以降（1,U）

【備考】 生ワクチンの接種を受けた者は，通常，4週間以上，また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は，通常，1週間以上経過した後に本剤を接種する（1） 新型コロナウイルスワクチンとは2週間あける（1）

【更新日】 20230606

※正確な情報を掲載するように努力していますが，その正確性，完全性，適切性についていかなる責任も負わず，いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし，それらを利用した結果，直接または間接的に生じた一切の問題について，当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は，日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。